



2013～14 年度
国際ロータリー会長

Ron D. Burton

Weekly Report Niigata



2013～14 年度
新潟ロータリー会長

山本 正治



ロータリーを實踐し みんなに豊かな人生を

2013～14 年度 国際ロータリーのテーマ

新潟 RC 1 月第 4 例会 (2014.1.28) No.3027

(1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2) 山本 正治会長挨拶

ロータリー暦によりますと、1 月 27 日を含む 1 週間は「追悼記念週間」となっています。誰の追悼記念かと言いますと、ロータリークラブ創設者の代表であるポール ハリスです。ポール ハリスは 1947 年 1 月 27 日に亡くなっています。そこで今日は、「墓マイラーを知っていますか？」と題してお話をします。

変な日本語ですが、墓マイラーを知っていますか。墓参りをする人を英語風に表現したものです。あるロータリアンは、乾杯役をカンパイラーと言っておりましたが、これも最近はやっている変な日本語の一つです。一応ここで私なりに定義をしておきます。墓マイラーとは歴史上有名な人物のお墓を訪ねる者です。昔風に言えば聖地巡礼者でしょうか。

私はこの言葉を知る以前から、外国旅行をした時には機会を見つけて墓地を訪ねていました。アーリントンのジョン F. ケネディ、メンフィスのエルビス プレスリー、アトランタのマルティン ルーサー キング、ブエノスアイレス・レコレタ墓地のエビータ (マリア エバ ドゥアルテ デ ペロン) などです。なぜ有名人の墓参りをするかと言えば、歴史上の人を身近に感じるためです。ただし夜中には行きませんので誤解のないようにお願いします。

私がこれから行ってみたい墓地にロータリーの有名人があります。今回は不可能ですので、バーチャルな墓マイラーとなってインターネット上で訪問しました。

シカゴ郊外のマウント・ホープ墓地にシルベスター シールとポール ハリスのお墓があります。建設された年代はシールのお墓 (1945 年) が先です。ハリスのお墓 (1947 年 1 月 27 日死去) は故人の希望でその横に置かれました。そのお墓の間に最近建立されたポール ハリス記念碑があります。

シールのお墓には SCHIELE とのみ刻まれ、台座に A CO-FOUNDER OF ROTARY FIRST PRESIDENT OF FIRST ROTARY CLUB とあります。ハリスの墓にはロータリーマークの下に FOUNDER OF ROTARY PRESIDENT EMERITUS ROTARY INTERNATIONAL

とあります。お二人とも極めてシンプルなのが特徴です。

これに対して、ニューヨークのモンテポーズ墓地にあるアーサー F. シェルドンのお墓には多くのメッセージが込められています。四角形に円と三角形を内接させた図が特徴的です。インドの哲学者バガバン ダスの宇宙観に心酔していたからです。BUSINESS SCIENTIST, AUTHOR, LECTURER とあり、その下に、HE PROFITS MOST WHO SERVES BEST とあります。私の印象ですが、墓石には経営学研究者としての思想が記されており、ロータリーとは関係がないことです。HE PROFITS…はシェルドンが経営学の講義の中で使用したものです (1902 年)。報われる内容は仲間からの尊敬、自尊心、物質的な富です。このモットーをロータリーが借用し、さらに有名になりました (1911 年)。

なお死亡記録では、シェルドンの名前をそのまま名付けた息子が 1929 年、30 歳の若さで死亡しております。シェルドンは翌年、ロータリークラブを退会しておりますので、彼の心境に想いを巡らし複雑な心境です。

今回のバーチャルな墓参りで、ロータリー創設期の方々の思いが分かりました。墓マイラーは決して“オタク趣味”ではありません。ロータリアンには同好の趣味の方々がおられると思います。次回は実際に旅に出てみたいと思います。

(3) ビジターの紹介

・竹内一紀君(白根 RC)、松本英明君(浪江 RC)

(4) 表彰等

・田中堅一郎君へマルチプル ポールハリス フェローピン贈呈

・加島長作君へ 2012-13 年度鈴木ガバナー賞

(30 年連続出席ロータリアン) 表彰状贈呈

(5) 高橋 秀樹君へ 2014-15 年度地区役員 (R 財団学友会委員) 委嘱状伝達

(6) 農林中央金庫新潟推進室推進室長

望月大輔君退会ご挨拶

(7) 各種ご寄付の発表

青少年育成基金寄付発表(柴田 史郎委員長)

桑原 隆君 高橋 清文君

本間 彊君

(8) ニコニコボックス紹介(金親 顯男副委員長)

・望月 大輔君 このたび新潟ロータリークラブを退会することとなりました。楽しくロータリークラブで過ごすことができニコニコしています。仙台でお会いしましょう。

・大澤 強君 今年、長男が20才になります。成人のお祝いを戴きニコニコです。私の白髪が増える訳ですね。

・桑原 隆君 1月23日、初孫、可愛い男子誕生しました。今日は本当のニコニコです。

・前川 磐君 まだまだ、未熟な二人です。末永くご指導をお願いしますと、ご挨拶してから43年。結婚記念日に花をいただきありがとうございました。

・鈴木 滋弥君 娘が行ったことがないと言うので、草津と別所温泉へ先週行って来ました。別所温泉の宿では川端康成が「花のワルツ」を書いた部屋に泊まりましたが玄関から64段も階段があり足の弱い方には無理ですね。とにかく温泉とドライブの楽しい2泊3日でした。

・小柳 実君 新年会欠席いたしました。当日、長寿祝を配達いただきました。有難うございます。馬齢を重ねて80歳を迎えます。今後ともよろしく願い致します。

・石本隆太郎君 去る1月21日の新年家族会で6回目の年男の記念品をいただき、又、最後に下手な歌を聞いていただき有難うございました。

(9) 幹事報告(若槻 良宏幹)

・例会終了後、新会員オリエンテーションを4階「雪椿の間」で開催致します。(先週ご入会の小松良平さんのオリエンテーション)

・「ロータリーの友」電子版を1月号から配信を始めます。パスワードは事務局で管理しておりますのでお問い合わせ下さい。

2月4日の例会予定

会員スピーチ「男性料理研究会レポート」

新潟調理師専門学校 副校長 吉田 和弘君

新潟ロータリークラブ会員専用ホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

会員専用ページログイン情報

ユーザーID niigata

パスワード rcrerc

(10) 会員スピーチ「ロビンソンクルーソー島探検記」

新潟医療福祉大学学長 山本 正治君

少年時代に読んだ『ロビンソン クルーソー漂流記』の記憶が、今頃になって蘇ってきました。小説のモデルとなった人物がチリ領の孤島に居たことを知ったからです。チリ大学とがんの国際共同研究を始めて20年近くなりますが、ぜひこの絶海の孤島に行ってみたい誘惑に取りつかれてしまいました。出張理由を島民の健康調査とさせていただき、早速決行しました(笑)。

ロビンソンクルーソー島はチリ沖670Kmの太平洋上の岩肌むき出しの火山諸島です。プロペラ機で約2時間、それからモーターボートで2時間かけて、島の集落に到着します。宿泊所にはガードレールの無い断崖絶壁の細道を車で向かいます。人口は約600人です。1704年、イギリスの私掠船の船員セルカークは船長に反抗したため置き去りにされ、4年4ヶ月の自給自足を余儀なくされました。その後救助され帰国し“時の人”となり、デフォーの小説(1719年刊)のモデルになりました。

私は高額な生命保険をかけた旅でしたが、幸い無事に帰国できました。そして得た答えが二つあります。

1. セルカークの住居跡を発見したのは日本人探検家でした。セルカークの住んだ小屋の上に後世の移住者が家を建てたのが不明の原因でした。上砂を取り除き、さらに地下の砂を篩にかけ、その中から当時のコンパスの破片を発見したのでした。今までの常識を覆してみるものの重要性を物語っています。

2. デフォーは、産業革命直前のイギリス国民に、激動する変化を乗り切るためのヒントをこの小説に込めたそうです。特にプラス思考、資本主義精神の先取り、合理的経済人モデルです。この中でプラス思考は、我が国の経済不況、3. 11震災後遺症、社会のグローバル化などで激動する時代を乗り切るために、300年の時空を超えて今でも通用する考え方です。

(11) 本日の出席率 79.35 %

(2週間前メーク後 83.52 %)